

古典は何を勉強するの？ 第二話



皆さん、こんにちは。最近、夜明けを目にすることはありましたか。生活リズムが崩れて、昼まで寝ている…なんてことになっていないでしょうか。今日は、かの有名な作品から、自然を表す言葉を紹介します。

春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山際、少しあかりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。

(『枕草子』)

【現代語訳】

春は夜がほのぼのと明けようとするころが良い。だんだん白く明るくなっていく山際、もう少し明るくなって紫がかった雲が細くたなびいている様子が良い。

これは『枕草子』の冒頭の文章です。夜明けが早くなってくると春が来たなあという気持ちになりますよね。「あけぼの」とは、「夜がほのぼのと明けようとするころ」という意味の言葉ですが、同じくらの時間帯を表す言葉として他に、

「しののめ」…東の空がほのかに明るくなるころ。夜明け方。

「あかつき」…夜明け近くのまだうす暗い時刻。未明。

という言葉があります。

古典の世界は、目に付くのは自然ばかりの世界ですから、日頃から、小さな季節の変化を楽しんで、文章にしたり、和歌を詠んだりしています。そのため、**自然の様子を表す言葉**が現代語よりもずいぶん豊かです。

一の文章と比べると、少し皆さんの気持ちから離れた文章になるかもしれませんが、今、自宅にすることが多くなっている中で、外の空気が吸いたくなったり、自然に囲まれたところに行きたくなったり、自然を求める気持ちが強くなっているのではないのでしょうか。

今年は満足に味わえなかった桜の花を思い浮かべると、

「自然って味わい深いなあ」なんて思うのではないのでしょうか。



つつく

